

ハットリくんの中国通信

円安の衝撃

业务种类 Type of Applied Transaction		<input type="checkbox"/> 外币兑换人民币 Foreign Currency Conversion into Renminbi		<input type="checkbox"/> 人民币兑换外币 Renminbi Conversion into Foreign Currency	
摘要 Particular	<input type="checkbox"/> 旅行支票 Traveller's Check		<input type="checkbox"/> 现钞 Cash	<input type="checkbox"/> 其他 Others	
币种 Currency	金额 Amount	牌价 Rate	兑付币种 Payment Currency	扣贴息/手续费 Less Discount Charges / Commission Charges	兑付金额 Amount
JPY	70000.00	0.0553	3871.00	60	111.00

请妥为保存，结汇业务项下在二十四个月内出境时可凭本人护照和此水单兑回外汇。
Please keep this carefully. Unused ¥ yuan can be reconverted into foreign currency according to your passport and the EXCHANGE MEMO when holder leave China within 24 months.

上海浙江艾西溢外币兑换有限公司
个人本外币兑换
特许业务专用章(1)
单位盖章: 复核:

はい?? 1万円がたったの“553元”にしかない?

思わず聞き返してしまいました…。

上海空港の両替所で・・・ 普段こういう所で両替はしないのですが、今回は湖南や江西と言った通常行かない所に行くため、前もって人民元を準備しておこうとしたらこのありさまです。

ここ数カ月、円安に伴い日本円の対人民元レートも物凄い勢いで悪化しています。出張の際に泊まるホテルの料金も、昔なら一泊 4～5 ‘000円ぐらいでしたが、いまなら7～8’000円は覚悟しないとイケません。

円高華やかなりし頃は1万円が800元近くになったことを考えれば、単純に見ても200元強の差損。地味ながらわれわれ出張族にとってはかなりのダメージです。

仕入れ価格も大変なことになってきましたし、この上は本当に景気が好転して市況が明るくなることを祈るのみであります。

・・・さて、梅雨を通り越して夏がやってきたようだ、と書こうかと思っていたら時間差で梅雨がやってきたようですがお変わりありませんでしょうか？

メールマガジンも二度目ということで、少し踏み込んだお話をさせていただきます。

今回は湖南、江西、福建の三省を訪問。関西で言うところの“青御影”の丁場を三本立てで調査です。

その1. 湖南大島（仮称）

~~ネタが無くなると困るので小出しにしたい。~~

この回を執筆中は江西、福建にはまだ到達していない都合上、今回は湖南大島のみのご紹介とさせていただきますがよろしくお付き合いくださいませ。

今回訪問の湖南省、中国の地図上は内陸、簡単に言うとおなじみ福建省の二つ左です。

実はこの湖南大島、送られてきたサンプルを見て「まだこんな石がありましたか〜」と少々驚き！！数ヶ月前から目を付けていた石です。いろいろツテをあたっていたのですが、弊社仕入れ先のA社で丁場を見に行く予定がある、という話を聞きつけ無理を言って同行させていただいたのがスタートです。



関西国際空港より上海へ飛び、上海より湖南省の省都・長沙へ。

長沙空港からバスで長沙火車(列車)駅。そこからさらに夜行列車で丁場近くまで行きます。

長沙から江西省まで新幹線で移動するのを入れると中国の主要交通機関を全て網羅出来てしまうという豪華プランです(笑)。

サンプルは青手細目で目も揃っており、石目は大島に良く似ていて中国大島系の高価格帯でいけるのではないかと狙っていたのですが、山を見た感想は、正直一年早いかな、といった感じです。



今掘っている層の下からかなり大きな玉が出てきていますので、そこまで行き着けば有望だと思うのですが、いま掘っている層はキズだらけ、小さな墓石なら作れないことはないのですが、成材率はとても低く、手を上げる工場はないでしょう。

弊社としてはもう少し様子見で、上層が掃けるタイミングを狙って追跡調査したいところです。

ある日の朝食

今回はお客様もいらっしゃらないので、基本的に中国の人達が本当に普段食べている物を食べています。

写真は長沙の路上店で食した朝食・・・

中国のスタイルはまず面の種類(太麺、細麺等)を選び、トッピングする具を選択します。

「これは無いな」といった見た目の具材を避けていくと、ひき肉に味付けした具材を発見、これいけるかも、と思いトッピングしてみると「あら不思議」、偶然にも日本にある“**坦々麺**”と良く似た見た目になりました。

日本のようにゴマベースでは無く、醤油ベースのスープなのですが、その分あっさりしていて、坦々麺では無い気もしますがなかなかの美味・・・さらに一杯が6元ととても安く、不覚にも前回福州で食したカンシーフ(一杯30元)より美味しいな、とってしまった私があります(笑)



写真は出来上がった湖南坦々麺？
一緒に写っている帽子の男前は、弊社厦門
事務所の王氏。

グルメレポートばかりを書いている気がしないでもありませんが、ビジネスとは言え人と人のお付き合い、同じ目線で話ができるこういう機会は貴重だと思っています。

さて、今回はこの辺りにさせていただきますが、次回は江西省の収穫などお話しできればと考えています。また懲りずにお付き合いいただければ光栄至極であります。

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。